

SYAKAIKA

受賞作品 | 社会科部門

〈総評〉

今年の社会科部門は、世界的に「共生社会」への意識が高まっていることを受けてか、バリアフリーや介護について研究した作品が多かったように感じます。超高齢化社会といわれる日本において、「介護」はだれにとっても身近なものになりつつある一方で、介護職における人手不足は喫緊の課題でもあります。2024年はパリパラリンピックの開催もあり、UDスポーツへの関心も高まりました。だれもが暮らしやすい社会をつくる上で、私たちに与えられた課題はまだまだ山積しています。しかし、そういった課題に早い段階で目を向けられる方々がこれだけたくさんいるということは、とても素晴らしいことだと言えます。一方で、今年は全体的にインターネットなどで調べられるような内容の研究に終始するものが多く、意欲的に研究・制作に取り組んだことが伝わる作品は、例年に比べると非常に少なかったと言えます。フィールドワークや、インタビューなどを通して得られる情報は貴重です。日常の中で「なぜ?」「どうして?」と思うことをそのまま素通りしてしまうのではなく、わかるまで追求する心を持ち、積極的に外へ出て、研究へと昇華していったほしいと思います。小さな疑問が連なって、大きな問題を解決する糸口になることも大いにあり得ます。来年は、皆さんのそうした小さな「なぜ?」「どうして?」が大きく花開いた作品に出会えることを期待しています。



文部科学大臣賞

タイから学ぶ私が伝えたい奄美の魅力

鹿児島県 奄美市立朝日小学校 6年
清水 茉結



子どもの文化・教育研究所 理事長賞

わたしも一緒に遊びたい～世界パラ陸上 から考える共生社会～

兵庫県 神戸市立岩岡小学校 4年
岸本 彩瑚



日本社会科教育学会 会長賞

まっすぐ動け車イス

兵庫県 神戸市立神戸祇園小学校 3年
金子 陽弥



中央出版株式会社 社長賞

お!!金

神奈川県 藤沢市立羽鳥小学校 4年
阪本 航愛



優秀賞

えいすけ電鉄～東海編～

愛知県 愛知教育大学附属岡崎小学校 3年
神田 瑛介

伝統を引き継ぐ方々に行ったインタビュー

埼玉県 川越市立川越第一小学校 6年
筋野 有莉

認知症への思い

山形県 鶴岡市立斎小学校 5年
坂東 志麻

文部科学大臣賞

タイから学ぶ 私が伝えたい奄美の魅力

清水 茉結 | 鹿児島県 奄美市立朝日小学校 6年



〈選考理由〉

社会科が大好きで、これまでも熱心に調べ学習に取り組んできたという茉結さん。お母さんの語学留学をきっかけにタイへホームステイすることになった茉結さんは、観光立国タイでの経験を通じて、自身の地元である奄美大島の観光業に何か活かせないかと考え、研究を開始します。まずは食事や文化など、ホストファミリー宅でタイの生活様式や特徴を学ぶとともに、タイでは観光客に対してどんな工夫がなされているのかを現地で体験。タイの基本情報から衣食住、現地の中学校やお祭りの内容まで、実際に茉結さんが体験した内容が、観光客目線で分かりやすくまとめられています。この作品の素晴らしい点は、そこで得た感動や発見を、同じく観光地として人気があり、茉結さん自身の住んでいる場所でもある奄美大島の活性化にどう活かすべきか、につなげているところにあります。奄美大島自体も、観光業を盛り上げるために数々の施策を打っています。その中で茉結さんは、「自分にもできること」を考え、実際に初めて奄美大島を訪れるという友人一家をモニター家族に設定し、オリジナルの観光プランを提案。タイと奄美大島は、その特異な気候など、少なからず似通う点があります。タイでの経験が存分に活かされた茉結さんの観光プランは、モニター家族にも好評を得ています。その中でも反省点をしっかり洗い出し、奄美大島をさらに活性化させるための学びへと昇華している点も高評価につながりました。

外国の文化に触れそれをもとに日本文化を見直すというのは、これからの国際理解・国際基調の大切な第一歩です。集めた情報をまとめ上げた成果も見事です。奄美大島、ひいては日本の魅力をさらに幅広い人々に伝えられるよう、今後たくさんの経験を通して、学びを深めていってください。

わたしも一緒に遊びたい ～世界パラ陸上から考える共生社会～

岸本 彩瑚 | 兵庫県 神戸市立岩岡小学校 4年



〈選考理由〉

2024年5月に開催された神戸世界パラ陸上競技選手権大会を通して、「共生社会」「インクルーシブなまちづくり」とは何かを考えた作品。世界パラ陸上競技選手権大会は、国際パラリンピック委員会によって創設された、障害者の方々のための競技大会です。足にハンデを抱えながらも、運動やみんなと遊ぶことが大好きだという彩瑚さんにとって、世界パラ陸上競技選手権大会は「だれもが暮らしやすいまちづくり」のお手本になる工夫がたくさん詰め込まれた場所です。

大会に出場している選手だけではなく、選手を支える義肢装具士の方々にも直接インタビューを敢行。この大会ならではの仕事に目を向けて取材できるのは、彩瑚さんが普段からこうした義肢装具士の方々と交流しているからこそ。さらには自身もお世話になっているという装具の会社で実際にプレゼンテーションを行うなど、彩瑚さんのバイタリティの高さに驚きます。バリアフリーという言葉が聞かれるようになって久しく、インクルーシブ公園など、物理的に「だれでも使える」「だれでも楽しめる」場所は少しずつ増えてきています。しかし、彩瑚さんの作品を通して感じたのは「心のバリア」を開放することの大切さでした。小学4年生がこのような研究をまとめたことに驚くと共に、ただただ感動しました。障害のあるなしにかかわらず、だれもが共生できる社会の実現に向けて、今後もあらゆることに挑戦していただきたい。

日本社会科教育学会 会長賞

まっすぐ動け車イス

金子 陽弥 | 兵庫県 神戸市立神戸祇園小学校 3年



〈選考理由〉

脳梗塞をきっかけに、車イス生活を送っているおばあちゃんと同居することになった陽弥さんは、おばあちゃんの介護を通して、「なぜ車イスはまっすぐ走らないのだろう」という疑問を抱きます。とても素朴な疑問ですが、原因についての研究がとても細やかで、大きな学びへとつながっているのが印象的です。道路が傾いている理由、横断歩道に少し段差がある理由。それぞれ、車イスで生活する方々にとっては不便さの一因となっています。反対に、「道路が傾いているから雨の日であっても排水がスムーズにできる」、「横断歩道に少し段差があるから視覚障害を持つ方々は歩道と車道の位置が分かりやすい」など、だれかににとってはそれが便利さにもつながっているということは、つつい見落としがちな視点だと感じます。介護するとはどういうことだろう。そんな思いを胸に、リフレッシュ教室に参加したり、実際に介護職に携わっている方々にインタビューをしたり、日記をつけたり、時間をかけて丁寧に研究している様子が高評価につながりました。超高齢化社会といわれる日本では、昨今、介護におけるさまざまな状況が社会問題となっています。人を介護する、あるいは人に介護されるということは、本当に大変なことです。介護する人にとっても、介護される人にとっても住みやすい社会が実現するよう、陽弥さんの夢も叶うことを願っています。

中央出版株式会社 社長賞

お！！金

阪本 航愛 | 神奈川県 藤沢市立羽鳥小学校 4年



〈選考理由〉

2024年7月3日より、日本では新しい紙幣が発行されました。新紙幣の発行は20年ぶりのこと。ひと夏を通して、航愛さんがお金をテーマにありとあらゆる体験をした記録がまとめられた作品です。驚くべきはその行動量。銀行の見学に始まり、銭洗いができる神社や博物館、お札に載っている偉人の記念館など、思いつく限りのお金にまつわる場所を訪れて、詳細にレポートしているのが印象的です。ただ研究に終始するのではなく、自分で体験することによって楽しみながら学びを得ているところ、さらには思いもよらないアプローチで偉人の特徴を掘り下げているのも、航愛さんの作品の魅力。お札に載っている偉人のヘアスタイルについて美容師さんにインタビューするなど目の付け所がユニークで、航愛さんの好奇心の強さを感じさせます。好奇心はあらゆる研究にける力の源です。日常に当たり前に存在するものについて、私たちはついつい見逃してしまいがちです。

これからも航愛さんがふと気になったものについて、わくわくを忘れずに、オリジナリティたっぷりのレポートを続けていってくれることを願っています。